

◆◆◆ 駿河湾の地震について

平成21年8月11日（火）午前5時7分、駿河湾（北緯34度47.1分東経138度29.9分深さ23km）を震源とするマグニチュード6.5（暫定値）、最大震度6弱（静岡県伊豆市、焼津市、牧之原市、御前崎市で観測）の地震が発生しました。

この地震に対して、地震検知から3.8秒後の5時7分14.9秒に緊急地震速報（警報）の第1報が発表されました。また、5時10分には伊豆諸島、静岡県に津波注意報（高いところで0.5m程度）が発表されましたが、7時13分には解除されました。

11日9時頃には、静岡県内を中心に揺れが強かった地域に、気象庁本庁、静岡地方気象台、名古屋地方気象台から機動調査班（JMA-MOT）が派遣され、震度6弱～5強を観測した22地点の震度観測点について、震度計に異常がないかどうか

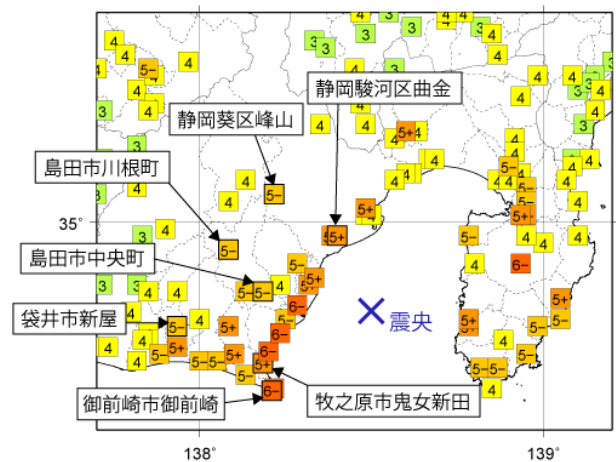
など観測環境の調査、また震度観測点周辺の被害状況の調査が行われました。その調査結果によると、震度計周辺に特に異常は見られなかったものの、震度6弱を観測した牧之原市相良や、御前崎市御前崎などで観測点付近の民家の屋根瓦が落下、同じく震度6弱の伊豆市市山では土砂崩れや石垣の崩落などが見られるなどの被害があったと報告されています。

また、同日11時20分には、気象庁から、「地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会」での検討結果に基づき、今回の駿河湾の地震は想定される東海地震に結びつくものではない、と発表されました。

「地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会」の検討結果では、「今回の地震は、震源の深さ、発震機構解及び余震分布から見て、沈み込むフィリピン海プレート内で発生したものと思われる。地震に伴い、地殻変動の観測データにステップ状の大きな変化が観測され、その後もゆっくりとした変化が続いていた。このゆっくりとした変化を調査した結果、想定される東海地震の前兆すべりによる変化ではないことがわかった。また、変化も次第に緩やかになり、すでに、通常観測される変化レベル程度におさまっている。これらのことから、今回の地震及びそれに伴う地殻変動は、想定される東海地震に結びつくものではないと判断した。」としています。

なお、地震発生時は、台風9号（8日に日本の南で発生した熱帯低気圧が台風に発達し、九州から東北までの広い範囲に大雨をもたらした。）がちょうど東海地方及び関東地方に接近しており、暴風雨による被害が懸念されていました。今回の地震によって地盤が脆弱になっている可能性が高く、雨による土砂災害の危険性が特に高まっていると考えられることから、気象庁は、静岡県の震度5強以上を観測した市町村については、当分の間は大雨警報・注意報の発表基準（土壌雨量指数基準）を通常基準より引き下げた暫定基準を設けて運用することとしました。

（気象庁ホームページより）



8月11日駿河湾の地震の気象庁観測点と震度分布